



Characteristics of IgA nephropathy in advanced?age patients

著者名	大島 康子
発行年	2017-09-15
URL	http://doi.org/10.20780/00032088

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2961 号	氏 名	大 島 康 子
審 査 委 員 会	主 査 教 授	馬 場 園 哲 也	
<p>論文審査の要旨 (400 字以内)</p> <p>IgA 腎症は若年者に好発する。高齢者においても新規診断例は散見されるが、その特徴は明らかでない。本研究は、高齢 IgA 腎症患者の特徴を明らかにすることを目的としたコホート研究である。</p> <p>対象は本学第四内科で診断された IgA 腎症患者 600 例で、診断時年齢によって 3 群に分類、各群間の臨床所見や腎予後が比較された。高齢者群では若年者群と比較し高血圧の頻度が高く、推算糸球体濾過量は低値、尿蛋白が高値であった。腎組織では、間質性線維化、尿細管萎縮、さらには動脈硬化の程度が強い特徴があった。診断後 20 年以内に 70%以上が末期腎不全に進行し、他の 2 群に比し腎予後が不良であった。腎不全へ進行した高齢患者は血圧が高かったことから、高齢 IgA 腎症患者において末期腎不全への進行を防ぐには、原疾患の治療に加え依存疾患の管理が重要であると結論された。</p> <p>本研究は高齢者における IgA 腎症の特徴や腎予後を初めて明らかにした点で新規性が高く、学術的価値が高いと考えられる。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表)【学校教育法学位規則第 8 条】</p>			